

プロバイオティクス飲料の摂取で 2型糖尿病患者の全身の慢性炎症が抑制される可能性

日本人の2型糖尿病患者では腸内細菌叢のバランスが乱れており、それにより腸管バリア機能が低下し、腸内細菌が血液中へ移行するバクテリアル・トランスロケーションが引き起こされていることが指摘されている。そこで本研究では、2型糖尿病患者がプロバイオティクス飲料を摂取することで、腸内細菌の血中への移行や腸内細菌叢の組成に影響が及ぶかについて検討した。

2型糖尿病のある日本人患者70人を対象に、プロバイオティクス飲料（ラクトバチラス・カゼイ・シロタ株含有）を継続摂取する群と摂取しない群にランダムに割り付け、16週間観察した。摂取前および摂取後8週目と16週目に便中および血中の腸内細菌叢を解析し、炎症性サイトカインの血中濃度を調べた。その結果、プロバイオティクス飲料を継続摂取していた群では摂取していない群と比べて、試験開始から16週後の便中の総ラクトバチラス属菌やクロストリジウム ココイデスグループの菌が有意に増加していた。また、腸内から血中へ移行した細菌数については、摂取群で有意に低下していた。一方、プロバイオティクス摂取による炎症性サイトカインへの影響はみられなかった。

したがって、プロバイオティクス飲料の継続摂取は、2型糖尿病患者の腸内細菌叢に変化をもたらし、腸管のバリア機能を強化することにより血中への腸内細菌の移行が抑制され、全身の慢性炎症が抑えられる可能性が示唆された。

出典：Scientific reports. 2017; 7(1): 12115.